

積取労働者は

待遇改善を要求せよ

見よ!!

- 一、労働賃銀の値上一、夜間労働の歩増し
- 一、船内住居の改善一、副食物の改善

諸君は此の待遇改善題目を如何に見るか!

吾々積取労働者は此の小樽に於て否日本に於ける産業上最も大切な一千五百万石の木材の積取り又は六十万石の海産物の産地積取に従事する労働者なのである、しかるに近時資本主義の没落は各親方達の無制限な請負競走のため、毎夜一時又は二時までも酷き使い賃銀は平均八十銭か九十銭より與へられず、食物は内地三等白米の蕪をかぶつて居るが南京米の四分六なのである、副食物に至つては毎日ワカメの四年も五年も経た奴を喰せるものであるから俺達は種々副物を用意して乗船しなければならぬのだ。

見よ!・只さい安い賃銀から左様した事は俺達積取労働者に取つて経済的一大苦痛なのだ、其の上布團賃、下宿屋の口錢を差引くならば一生懸命に働いて秋の積取末期に下宿屋にサガリ金を附ける様な事に至るのだ、だから俺達は炭山募集の前金をして其の方の片を附けなければならぬと云ふ様な仕末に至るのだ。

見よ!・石炭の上に寝起し中甲板の鐵板の上へ薄べり蕪一枚で寝て働いて報酬がそうした結果に終るのだ。

だから俺達積取労働者はそうした親方の酷使に抗争するには一人二人の抗争では何等の意義がないのである、こうした不平を統一するため積取労働者大會を最近に開催するによつて積取労働者諸君は奮つて参加されんことを望む。

昭和貳年六月貳拾五日

下宿人有志 加 下宿人有志

サ 同

萬 同